

第3回
焼津未来創出プロジェクト（創業支援制度構築）事業
プロジェクトチーム会議議事録

【日 時】 平成29年3月28日（火） 午前9時00分～午前11時30分

【場 所】 焼津市役所会議室棟 201号室

【出席者】 プロジェクトチーム構成員 9名
焼津市 政策企画課 課長 飯塚 真也
焼津商工会議所 専務理事 岩谷 壽夫
大井川商工会 事務局長 下村 信仁 （代理：経営指導員 大石 祐輝）
焼津信用金庫 地域貢献部長 南條 和義
静岡銀行焼津支店 支店長 田形 淳
焼津市 産業政策課 課長 織原 照夫
焼津市 産業政策課 産業立地育成担当 係長 小長谷 邦博
焼津市 政策企画課 地方創生室 室長 山下 浩一
株式会社サンロフト 社長 松田 敏孝
専門家 2名
船井総合研究所 栃尾圭亮
船井総合研究所 土屋大輔
事務局 4名
株式会社サンロフト 山田 尚子
株式会社サンロフト 鈴木 あゆみ ※敬称略

【次 第】

- 1 あいさつ（焼津市政策企画課長）
- 2 焼津未来創出プロジェクト（創業等支援制度構築）報告について
（株式会社サンロフト）
- 3 意見交換
- 4 次回会議について（焼津市政策企画課）

【議事録】

1. あいさつ（焼津市政策企画課課長）

このプロジェクトは、焼津未来創生総合戦略の推進、とりわけ若者の雇用確保を目的に、創業や市内企業の雇用の拡大につながる事業を官民連携で支援する新たな制度を構築するために発足した。昨年8月に国の認定を受け、今年度から3カ年でおこなう事業である。前回の会議では、様々な調査結果から導き出された課題の報告を行ったが、これらの課題を解決するためにどのような施策を行っていくのか、本日は前回の意見を受けて支援制度案をとりまとめたので、これについて皆様に議論をしていただきたい。

なお、本日をもって今年度の議論は終了となる。いただいた意見を踏まえ、叩き台を見直すとともに、具体的な実施体制については、次年度以降に検討していく。

2. 焼津未来創出プロジェクト（創業等支援制度構築）報告について（株式会社サンソフト）

資料「報告書」「参考資料」

(1) 現状の課題に基づく施策案の方針策定

調査結果をもとに、対象者を「創業支援機関」「創業希望者等」「新規事業挑戦者」の3つに分類し、それぞれの課題を次のように挙げた。

対象者	課題
創業支援機関	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の仕組みの不足 ・経営力向上施策の不足 ・創業、新規事業を活発化させる施策の不足
創業希望者等	<ul style="list-style-type: none"> ・創業のための物理的スペースがない ・支援制度の低い利用度 ・事業拡大意欲の不足
新規事業挑戦者	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業を行うための情報不足 ・事業展開に必要となるリソース不足（人・販路） ・新規事業を担う人材と出会う機会が不足

そして、この課題に基づき、施策案の方針を次の3つと定めた。

- I. 創業や新規事業を生むための交流機会を創出
- II. 各支援機関の連携強化
- III. 機運の醸成

(2) 新たな創業等支援施策案について

(1) を踏まえ、以下の8つの施策案を示し、その概要が説明された。

	施策案
1.	市長と意欲的な経済人が産業振興について話し合う場の設置
2.	各支援機関の情報を一元管理・共有する仕組みの構築
3.	地元企業、創業者、創業希望者、U・Iターン希望者、学生が交流するマッチングイベント開催
4.	既存のカフェや飲食店等を活用したビジネスの語り場の創設
5.	焼津で働く・働きたい人向けの産業メディア（新聞）の発行
6.	ビジネス活性化に直結するITインフラの整備、IT活用教育、情報セキュリティー・モラル教育の実施
7.	創業希望者、新規事業を検討する企業のためのコワーキングスペースの提供
8.	創業・就業・新規事業支援のための拠点（ワンストップフロア）の開設

(3) 船井総合研究所の栞尾氏よりコメント

短期ですべての施策案を実行するのは難しいだろうが、他の地域にはない、具体的な支援策まで出てきているのが興味深い。報告書にまとめられた理念と課題、施策の内容をもとに、どの施策を優先するべきかを議論するとよいのではないか。個人的には、1~3の施策案に関心がある。マッチングイベントがうまく機能すれば、ビジネスの語り場は自然とできてくる。施策を共有するしくみ、相談者の話がある程度共有するしくみ、さらには創業者のスキルとマインドの向上に向けて大きな流れをつくっていくことを目指してほしい。

3. 意見交換

- (意見) 報告書にある創業支援窓口の利用者実績の確認をしたい。
- (意見) 焼津が15名、大井川商工会10名で合計25となっている。報告書の表記については、焼津商工会議所、大井川商工会の実績であるとわかるように加筆する。
- (意見) 商工会議所の行動計画も焼津未来創生総合戦略を踏まえて策定するので、参考までに市や金融機関の創業支援窓口の利用者数などを共有してもらいたい。
- (意見) 焼津未来創生総合戦略のKPI「新規創業件数4件/年」も必要に応じて見直していきたい。
- (意見) こうした数値の共有は、最終的には各支援機関の連携強化に行きつく話だと思う。創業者が何名いるのか等、市として全体でどうまとめていくのか。商工会議所、大井川商工会、各金融機関などで名前や支援実績などを突合させて実数をわかるようにできないか。
- (意見) そのあたりは難しい面がある。ただ、焼津市の全体的な仕組みとして会社登録をして、その情報を共有するほうが今後は自然ではないか。
- (意見) 4件という目標はすぐに達成できてしまう。これは焼津市の創業支援窓口を利用した創業者の実績目標。商工会議所、商工会、金融機関もすべて含んだ数値で目標を掲げるほうがよい。
- (意見) 4件は市が創業支援窓口を始めた当初の数値に基づいている。
- (意見) 参考資料にもあるように融資件数などの数値はホームページなどでも公開している（相談件数は把握していない）。藤枝市の創業支援の取り組みにも協力しているが、市が関連団体の数値を取りまとめている。
- (意見) 藤枝市は年度末に情報を吸い上げて集計している。

- (意見) 相談、融資、それぞれの窓口を利用した分、だぶって計上されてしまうようだ。
- (意見) 税務署に開業届けを出してもらってはどうか。
- (意見) 個人でもあるか？
- (意見) 個人もある。
- (意見) 「リノベーション」という言葉はよく使う言葉か。
- (意見) 最近、よく使われている。
- (意見) 焼津の産業がこれからどうなっていくのかみんな心配している声がある。
市長が中央から聞いて知ることを地元企業に伝える場も欲しい。
- 第3案の実施組織については、大学も加えればよいのではないか。
- 第6案の施策については、工場の誘致などでIT導入が重要なこと、ロボットに代わっていくことなどは理解できるが、一方で、従業員が欲しいが雇用できないで困っている企業もある。
- (意見) 表現が課題としての書き方になっていないことも踏まえ、報告書を書き換える。
- (意見) 第1案は、まず鶴岡市のケースに学んでみたい。市長と経済人が話し合う場をつくるということは、比較的やりやすいことではあると思うので、やれることはやっていきたい。また、新任部長とも交流をはかってもらえたら。
ところで、H29.30.31とあるが、予算的なものはまだ決まっていないのか。
- (意見) 予算はまだこれから。支援策の表現はちょっと具体的すぎるかもしれない。
- (意見) 今回の業務として具体的な提案を求めたため、このような資料を報告してもらうこととなった。本日の議論を踏まえ、残りの期間で最終的な修正を行っていただきたいので、提案、ご意見があればお願いしたい。
- (意見) 雇用を生む創業者が少ないということなので、創業よりも既存企業の新規事業への扱いを重視したほうがよいのではないか。
- (意見) 創業と同等に既存企業の新規事業も支援するイメージで支援策をまとめた。
- (意見) 大井川も工場が多いが、ロボット導入はすぐには難しいかと思う。雇用面では、パートさん、繁忙期人材が欲しいケースが多いと感じる。
- (意見) 創業だけでなく、既存企業の新規事業支援が重要だ。

例として、808 ファクトリーが焼津で新規事業展開をしている。そういう人々（会社）の意向をどうやって汲み取っていくかが大事だ。また、廃業していく人が多い。それを若い人々とどうつなぐか、空き店舗利用、相談の場、マッチングしていくような場が必要だと感じる。インキュベーション施設の開設を目指すには、まず、どうしたらよいか。創業したい人にとって、家賃や光熱費、開業場所などが重要。駅前商店街のチャレンジショップもあるが。

(意見) 現在は1件の利用者がある。

(意見) チャレンジショップは期間限定。

(意見) 駅前商店街のチャレンジショップの利用者には、改装費補助などがある。

(意見) 報告書 P22 の時期に「平成 30 年」とあるが？

(意見) 「中期」の間違いなので修正する

(意見) コワーキングスペースなどは3年くらいで独立するような考え方で支援設計がされていることが多い。

(意見) 報告書 P22 金融機関の表記について。

(意見) 金融機関の表記は精査して修正する。ワンストップフロアの開設については、報告書 P24 にある東京創業支援センターに開設の経緯などが聞けるのではないか。

(意見) 人やお金が必要になる施策案もあるので、栃尾さんのおっしゃるように、第1～3案あたりが人やお金を考慮せずに進められるものかと思った。3月末までにまとめることを考えると、今回のプロジェクトでは、提案・提言と捉えればよいのかと思う。

報告書はもう少し精査が必要。P5 創業希望は20代、40代が多いとあるが、30代は本当に少ないのかどうかなどが気になった。

焼津としての特徴、産業政策、他市町の調査でわかった好事例とどう結びつけていくのかがこれからまとめていく必要があると感じた。

また、データは自社の切り口で出している部分が多いので、金融機関によってデータの質が異なる。

(意見) 栃尾氏が第1～3案を勧めてくれたが、報告書 P9 にある「達成時期」「重要度」とリンクはしていない。その基準は何か？

(意見) 第2案の「達成時期」が「中期」、重要度が「中」なのは、各関係組織内のルール化に時間がかかるという認識だったため。それ以外は、プロジェクトの目的に

照らして判断した。ただし、今日の議論によって変更があるものと認識している。

(意見) 中間報告の結果を聴いて、第2案はハードルが高いという認識だった。そこで、連絡会議を開催するなど各機関の連携を進めながら、産業連携協定が2年後ぐらいに実現できるという計画がよいのではないか。

(意見) 前回の会議でも金融機関では情報共有が難しいということが話題になった。この件で課題はあるか。

(意見) 情報を一元管理するには、新たな機関をつくってしまうほうが手取り早い。ただ、そこを誰がやるのか、仕事量や専門性も含めて人材確保が課題。

我々よりも成果を挙げているところもある。市や関係機関で足並みを揃えてやっていこうという、こうした会議を積み上げながら、上層部に働きかけていくことをしないと、現場だけ頑張っても変わらないし、予算もつかない。

いずれにしても、やっていることはよいことでも今後のことを考えれば、創業支援の取り組みをどのように評価するのか。将来を見据えた決断をしていかなければならないと思っている。

また、キーマンはいる。キーマンに焼津市の産業をどうしていきたいと考えているのか聞いてみたい。

(意見) 案2と案8を合わせたような制度構築のようなイメージか。

(意見) 立場的には儲かってもいけない。手数料で食べていくような仕組みを考えなくてはいけない。

(意見) 「重要度」は「中」となっているが「高」にするか。

(意見) これだけ関心をもって議論をしていただくと「高」でもよいのかもしれない。

(意見) 「重要度」という表現を変えたほうがよいかもしれない。

(意見) 「優先度」としてもよいのでは？

(意見) 31日の資料では納得感のある言葉で仕上げたい。

(意見) 「達成時期」についても気になるが。

(意見) 「早期」は事業年度内、「中期」は3年～5年をイメージしていた。ただ、皆さんが気になる場所であると思うので、「おおむね〇年以内」など、表記を検討する方向でお願いしたい。

- (意見) 公開になることによって資料にある言葉が独り歩きしてしまってもよくないので、「達成時期」や「重要度」などは誤解の生じない表記にて仕上げたい。
- (意見) 「実施組織」などは固有名詞も出るため、特に配慮が必要か。
- (意見) 名前が書かれることで、やらなきゃいけないんだという認識を持つこともある。
- (意見) そういうふうに皆さんに思っただけなのありがたい。
- (意見) H28 のこの成果物をもとに、H29、30、31 におけるアクションプラン的な仕立て直しをするのか。
- (意見) このあとはさらに具体的な検討を重ねながら決めていくことになる。
- (意見) では、今後については、またあらためて示すこととして、まずは今日いろいろご意見をいただいたが、特に P10 以降の具体的な施策案について、30 日の朝一までに修正点、追加点について連絡をしていただくということで皆さんにお願いしたい。
- (意見) そのほか何かご意見・ご質問は？
- (意見) 近隣市町のワンストップフロア事例があるなか、どこまで現実的につくるか。
- (意見) 今回の提案を受けて検討をしていく。では、時間は限られているが、引き続き、協力をお願いしたい。

4. 次回会議について（焼津市政策企画課）

とりいそぎ、資料は精査の上、来週、お届けを予定している。その資料に基づき、4 月以降も、引き続き、体制や実施事項を検討するためのプロジェクトを進めていきたいので、ご協力をお願いしたい。

以 上